

18歳選挙権を考える 求められる若者の力

時代の要請

平成28年7月の参議院選挙から選挙権が満18歳以上に引き下げられ、高校生が選挙に参加する権利を持つことになりました。

これは18歳も既に自分の考え方をしっかりと育んできた世代であり、今後の少子高齢化社会を支える世代であることから、将来の日本のあり方を決める政治に関わってほしいとの意図があるからです。

つまり、国は今後の政治には若い世代の関わりが必要だと考えています。

政治に関わるとは

政治に関わるということは、政治について重要な役割を持つこと

になります。

政治の具体的な役割の一つは、お金の集め方や使い方を決定することです。地域住民などからどのように税金などを集め、その集められた税金などをどのように使うかを決定することです。そして決定するために皆で話し合うことです。

ただし、お金の使い道などは人によって意見が異なることや、意見が分かれた場合は、一般的には多数決を用いるため、全て自分の希望する結果になるとは限りません。

求められる姿勢

ここで重要なことは、決定するまでに議論を尽くすことです。多様な視点からさまざまな意見やその根拠を明ら

かにして何が課題にな

っているのか、どのような影響を及ぼすのかなどわかりやすい形で多くの方を巻き込み議論することです。

そうすることにより、決定された意見について、相互理解が深まり、実効性が高まるからです。

表1 平成28年7月参議院選挙における投票率(確定値)

	全国	高山市
18歳	51.28%	45.88%
19歳	42.30%	32.31%
18歳+19歳	46.78%	39.61%
全体	54.70%	65.54%

表2 年齢別投票率

	全国	備考
20歳～24歳	33.21%	最低
25歳～29歳	37.91%	
70歳～74歳	73.67%	最高

※全国の投票所から抽出した調査によるもの

それすらやめてしまふと一部の方の考えに基づいて政治が行われる可能性もありますので、少しでも議論に参加することが大切です。

高山市の状況と今後の取り組み

平成28年7月に行われた参議院選挙の投票率は、表のとおりです。特に、19歳の投票率は、住民票を残したまま市外に進学するケースが多いことも影響して、全国平均より低くなっ

ています。表1の18歳の投票率は、表2の20代の投票率と比べ高くなっています。これは、特に高校等での政治教育、家庭で選挙について話しをする機会があったからではないかと考えます。

しかし若者の投票率は相対的に低い状況にあり、今回選挙権を得た18歳、19歳の方が今後も政治に関わってもらえるよう、また、それ以上の年代も合わせ、高山市議会でも取り組み

海外の若者の選挙権

海外の選挙権年齢は「18歳以上」が主流です。国立国会図書館の調査(平成26年)では、世界の191の国や地域のうち、9割近くが18歳以上と定めています。(例えば、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリアなど)

国によっては、18歳を更に引き下げる議論もあります。ますます若者が政治に参加することが期待されています。



む必要性を感じています。多くの方にこれから政治に関わっていただくよう、政治や議会を身近に感じていただけるような場や機会を広げていきたいと考えています。